



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月2日

上場会社名 セガサミーホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6460 URL http://www.segasammy.co.jp

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 里見 治
 兼CEO兼COO

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務経理本部長 (氏名) 大脇 洋一 (TEL) 03-6215-9955

四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日 配当支払開始予定日 平成28年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	169,501	9.9	15,364	167.5	15,475	163.8	24,251	—
28年3月期第2四半期	154,302	△2.5	5,744	110.3	5,867	123.8	964	—

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 17,554百万円(—%) 28年3月期第2四半期 173百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	103.47	103.15
28年3月期第2四半期	4.11	4.11

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	521,500	306,124	58.1
28年3月期	532,957	299,950	55.3

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 302,849百万円 28年3月期 294,733百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
29年3月期	—	20.00			
29年3月期(予想)			—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	373,000	7.2	28,000	58.9	27,000	64.5	30,000	458.7	127.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期2Q	266,229,476株	28年3月期	266,229,476株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	31,837,261株	28年3月期	31,834,807株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期2Q	234,393,482株	28年3月期2Q	234,550,372株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、平成28年11月4日にアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容(映像並びに音声)については、当日使用する決算説明会資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
(4) 追加情報	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	154,302	169,501	15,199	9.9
営業利益	5,744	15,364	9,619	167.5
経常利益	5,867	15,475	9,608	163.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	964	24,251	23,287	—
	円	円	円	%
1株当たり四半期純利益	4.11	103.47	99.35	—

遊技機業界におきましては、パチスロ遊技機市場において、遊技機の型式試験を執り行う一般財団法人保安通信協会（略称:保通協）における型式試験方法の運用変更に対応した機種への入れ替えに対して、パチンコホール運営者が慎重な見方を示しております。また、パチンコ遊技機市場におきましては、日本遊技機工業組合（略称:日工組）にて決定された『のめり込み』対策に係る新たな申合せが適用されたこと等に伴い、依然として不透明な状況が続いております。そのような状況の中、一部の実績あるシリーズ機を中心に高い評価を受けるタイトルが登場してきており、今後の市場活性化に向けては、各種自主規制等に適応した、幅広いエンドユーザーに支持される機械の開発、供給等が求められております。

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境につきましては、スマートデバイス向けなどのデジタルゲーム市場において、国内におけるスマートフォン普及の鈍化、及び有力パブリッシャーの優位性が増していることから、より品質の高いコンテンツの供給が求められており、開発期間の長期化や運営費用が増加傾向にあります。一方、海外におきましては、アジアを中心に今後の成長が期待されております。パッケージゲーム市場におきましては、家庭用ゲーム機の新世代ハードの普及による今後の市場拡大に期待が高まっているほか、欧米及びアジアでは、PC向けゲームが大きな市場を形成しております。アミューズメント施設・機器市場につきましては、新作ビデオゲームを中心に、施設稼働の向上やユーザー層拡大の兆しが表れております。

リゾート業界におきましては、訪日外国人数の伸び率は鈍化しているものの増加継続しており、ホテルの客室稼働率は引き続き上昇傾向にあります。また、観光立国の実現に向けて、『特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律案（IR推進法案）』が国会に提出されております。

このような経営環境のもと、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,695億1百万円（前年同期比9.9%増）、営業利益は153億64百万円（前年同期比167.5%増）、経常利益は154億75百万円（前年同期比163.8%増）となりました。また、固定資産売却益など特別利益119億94百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は242億51百万円（前年同期は純利益9億64百万円）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

なお、文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

また、当グループの報告セグメントとして従来「エンタテインメントコンテンツ事業」に含まれていた一部事業について、第1四半期連結会計期間より「遊技機事業」に変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後のセグメント区分に基づいております。セグメント情報に関する詳細は、12ページ「3. 四半期連結財務諸表（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

《遊技機事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	60,911	64,926	4,014	6.6
セグメント間売上高	337	262	—	—
売上高合計	61,249	65,189	3,939	6.4
営業利益	8,452	10,639	2,186	25.9

パチスロ遊技機におきましては、当第2四半期において、主力タイトル『パチスロ北斗の拳 修羅の国篇』の納品は一部にとどまったものの、独自のゲーム性が支持された前作に新たな要素を多数加えた『パチスロBLOOD+ 二人の女王』等の販売が好調に推移し、前年同期実績を上回る81千台の販売となりました（前年同期比11千台増）。パチンコ遊技機におきましては、過去シリーズから一新した液晶演出に新規搭載のギミックを融合させた『ぱちんこCR蒼天の拳天帰』の販売が好調に推移したことや、わかりやすいゲーム性に新たな遊び方をプラスしたドラマ演出が魅力の『ガオガオキング』シリーズの最新作『ぱちんこCRガオガオキング2』シリーズ等の販売が堅調に推移したことから、前年同期並みとなる75千台の販売となりました（前年同期比4千台減）。

また、部材リユース等による原価改善や、開発費等の費用低減により収益性の改善に取り組んでおります。

以上の結果、売上高は649億26百万円（前年同期比6.6%増）、営業利益は106億39百万円（前年同期比25.9%増）となりました。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	85,967	97,829	11,861	13.8
セグメント間売上高	506	463	—	—
売上高合計	86,474	98,292	11,818	13.7
営業利益	1,703	9,143	7,440	436.8

エンタテインメントコンテンツ事業においては、デジタルゲーム分野において、配信から4周年を迎え、国内450万IDを突破した『ファンタシースターオンライン2』が引き続き好調を維持しております。スマートデバイス向けタイトルにつきましては、9月より正式スタートしたユーザー同士で競い合うリアルタイム対戦が好調の『ぶよぶよ!!クエスト』、各種イベント等の開催を実施した『チェインクロニクル ～絆の新大陸～』や『オルタンシア・サーガ -蒼の騎士団-』など既存主力タイトルを中心に堅調に推移いたしました。また、新作タイトルとしてチェインシナリオRPG『ワールドチェイン』を9月にリリースいたしました。

パッケージゲーム分野におきましては、9月発売の『ペルソナ』シリーズ最新作『ペルソナ5』等の主力タイトルの販売が好調に推移しており、販売本数は前年同期を上回る465万本となりました。

アミューズメント機器分野におきましては、引き続き『艦これアーケード』の稼働が好調に推移しており、レベニューシェアモデルによる収益貢献や、16年目の進化を遂げた競馬メダルゲーム『StarHorse』シリーズのCVTキット『StarHorse3 Season VEXCEED THE LIMIT』の販売が堅調に推移いたしました。

アミューズメント施設分野におきましては、既存のゲームセンター業態におけるプライズなどの運営強化や、『艦これアーケード』等のビデオゲームを中心に稼働が好調なことから、国内既存店舗の売上高は前年同期比で110.8%と好調に推移いたしました。

映像・玩具分野におきましては、劇場版『名探偵コナン 純黒の悪夢 (ナイトメア)』の配給収入を計上したほか、玩具につきましては定番・主力製品等を中心に販売いたしました。

以上の結果、売上高は978億29百万円（前年同期比13.8%増）、営業利益は91億43百万円（前年同期比436.8%増）となりました。

《リゾート事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	7,422	6,745	△677	△9.1
セグメント間売上高	18	27	—	—
売上高合計	7,441	6,773	△668	△9.0
営業利益	△1,218	△1,312	△93	—

リゾート事業におきましては、国内有数のリゾート『フェニックス・シーガイア・リゾート』において8月にシェラトン・グランデ・オーシャンリゾートの客室改装やパブリックスペースを中心とした宿泊者専用の『風待ちテラス』や『実家くろぎ』の新設等を実施し『新しいシーガイア』としてリニューアルオープンしたほか、夏休みイベントにおいては、週末に打ち上げ花火やナイトマーケットの開催をはじめ、『ウミガメの生態を学ぶツアー』『おもてなし体験（こども職業体験）』等の集客施策を実施いたしました。また、平成28年熊本地震の影響により、一部キャンセルが出ていた宿泊等の予約改善に引き続き取り組んでおります。

大自然超体感ミュージアム『オービィ横浜』では、料金体系の見直し及び『アニマルスタジオ』等の集客施策を実施し利用客数は増加しましたが、施設稼働は低調に推移いたしました。一方で、屋内型テーマパーク『東京ジョイポリス』におきましては、7月に導入した『ZERO LATENCY VR』をはじめ複数の新作アトラクション等が好評を博し、施設稼働は堅調に推移いたしました。

また、海外におきましては、韓国における代表的観光企業であるParadise Co., Ltd.と当社の合弁会社であるPARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.（当社持分法適用関連会社）が、韓国・仁川において、既存のカジノ施設の運営に取り組んでおります。

以上の結果、売上高は67億45百万円（前年同期比9.1%減）、営業損失は13億12百万円（前年同期は営業損失12億18百万円）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年5月13日に公表した通期連結業績予想を修正いたしました。詳細については、平成28年11月2日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(修正再表示)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準委員会 平成28年3月28日 企業会計基準適用指針第26号)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	141,316	131,132
受取手形及び売掛金	55,612	42,880
有価証券	48,401	59,403
商品及び製品	6,971	20,277
仕掛品	17,382	16,009
原材料及び貯蔵品	10,123	9,897
その他	23,165	24,757
貸倒引当金	△681	△317
流動資産合計	302,292	304,040
固定資産		
有形固定資産		
土地	38,742	34,997
その他(純額)	62,338	61,130
有形固定資産合計	101,080	96,127
無形固定資産		
のれん	12,201	12,441
その他	12,616	13,204
無形固定資産合計	24,817	25,645
投資その他の資産		
投資有価証券	76,504	68,703
その他	28,810	27,754
貸倒引当金	△549	△772
投資その他の資産合計	104,765	95,686
固定資産合計	230,664	217,460
資産合計	532,957	521,500

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,011	41,793
短期借入金	14,002	12,240
未払法人税等	2,536	5,560
引当金	5,742	6,853
資産除去債務	30	7
その他	50,666	38,791
流動負債合計	105,990	105,246
固定負債		
社債	52,000	43,800
長期借入金	48,895	44,621
退職給付に係る負債	3,906	3,101
資産除去債務	3,952	3,792
解体費用引当金	2,368	600
その他	15,892	14,213
固定負債合計	127,015	110,129
負債合計	233,006	215,376
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	118,404	118,404
利益剰余金	194,505	209,219
自己株式	△54,758	△54,761
株主資本合計	288,105	302,816
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,494	8,993
繰延ヘッジ損益	△40	△562
土地再評価差額金	△4,600	268
為替換算調整勘定	△876	△9,408
退職給付に係る調整累計額	651	741
その他の包括利益累計額合計	6,628	32
新株予約権	801	43
非支配株主持分	4,415	3,231
純資産合計	299,950	306,124
負債純資産合計	532,957	521,500

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	154,302	169,501
売上原価	93,416	102,163
売上総利益	60,885	67,338
販売費及び一般管理費	55,141	51,974
営業利益	5,744	15,364
営業外収益		
受取利息	250	137
受取配当金	480	507
為替差益	—	597
投資事業組合運用益	178	159
その他	859	783
営業外収益合計	1,769	2,185
営業外費用		
支払利息	465	504
持分法による投資損失	15	539
社債発行費	41	—
為替差損	153	—
支払手数料	52	23
複合金融商品評価損	332	77
その他	585	929
営業外費用合計	1,647	2,073
経常利益	5,867	15,475
特別利益		
固定資産売却益	25	9,514
投資有価証券売却益	31	254
関係会社清算益	291	290
匿名組合清算益	—	1,087
新株予約権戻入益	8	801
その他	147	47
特別利益合計	505	11,994
特別損失		
固定資産売却損	65	1
減損損失	328	168
早期割増退職金	1,625	—
事業再編損	—	68
その他	286	117
特別損失合計	2,305	355
税金等調整前四半期純利益	4,067	27,114
法人税、住民税及び事業税	2,985	2,696
法人税等合計	2,985	2,696
四半期純利益	1,081	24,418
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	964	24,251
非支配株主に帰属する四半期純利益	117	167

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△213	△2,502
繰延ヘッジ損益	△14	△328
土地再評価差額金	64	4,869
為替換算調整勘定	△649	△5,731
退職給付に係る調整額	△72	85
持分法適用会社に対する持分相当額	△22	△3,256
その他の包括利益合計	△907	△6,864
四半期包括利益	173	17,554
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	98	17,655
非支配株主に係る四半期包括利益	75	△101

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメント コンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	60,911	85,967	7,422	154,302	—	154,302
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	337	506	18	862	△862	—
計	61,249	86,474	7,441	155,164	△862	154,302
セグメント利益又は損失(△)	8,452	1,703	△1,218	8,937	△3,193	5,744

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△3,193百万円には、セグメント間取引消去55百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,248百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			計	調整額 (注)	四半期連結損益 計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメント コンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	64,926	97,829	6,745	169,501	0	169,501
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	262	463	27	753	△753	—
計	65,189	98,292	6,773	170,255	△753	169,501
セグメント利益又は損失(△)	10,639	9,143	△1,312	18,471	△3,107	15,364

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△3,107百万円には、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,114百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分方法の変更)

「遊技機事業」における更なるグループシナジーの発揮による業績向上を推進するため、当グループの報告セグメントの区分として従来「エンタテインメントコンテンツ事業」に含まれていた株式会社サミーネットワークスの「遊技機関連事業」について、第1四半期連結会計期間より「遊技機事業」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。